

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について 令和3年5月27年度日実施

○教科に関する調査 国語・算数 ○質問紙調査（学習・生活意識）

令和3年度の「全国学力・学習状況調査」（6年生実施）の調査結果報告が文科省より出されました。「全国学力・学習状況調査」は、国の悉皆調査として「学力調査」「学習・生活意識調査」で構成されています。

本校の6年生は、低学年の頃より「主体的な学習・生活づくり」に取り組んできました。ポイントが高かった項目を見ると、その成果が出てきています。特に「地域への関心を高め、地域の一員として関わろうとすること」や「課題解決の過程を子ども自身が意識して主体的・協働的に学習に取り組んでいること」、「自分で計画を立てて、学習に取り組んでいること」等が挙げられます。



【教科 国語・算数】（平均正答率（%））

	国語	算数
本校	73	80
神奈川県	63	70
全国	64.7	70.2

国語・算数共に神奈川県や全国の平均を上回っています。

各問題における正答率でも、全問で平均を上回っています。

特に、記述式の問題の正答率が、国語では全国よりも12ポイント、算数では、14ポイント高く、自分の考えを文章にまとめる力がついてきていることがわかります。

【国語】

「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」問題では、平均は大きく上回っているものの、正答率が4割強しかありませんでした。昨年度も「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題は、正答率が3割程度しかなく、例年、正答率が低い問題です。重点的に取り組んでいる項目ですが、子どもたちの回答状況を詳しく見ると、複数の条件を満たしたうえで文章をまとめることが難しかったことがうかがえます。複数の条件を意識したり複数の情報から必要なことばを取り出したりすることは、教科を超えてこれからの学習や生活でとても大切です。これまで以上に、国語の授業のみならず、他教科や学校生活のいろいろな場面で取り組んでいきたいと考えています。

【算数】

「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」問題は、平均を15ポイント以上上回る高い正答率でした。昨年度も「複数のグラフを関連付けて、特徴や傾向を読み取り、判断する」問題で正答率が高く、他教科も含め、問題解決の手段の一つとして表やグラフを活用する学びを意図的に取り入れてきた結果と考えています。また、「知識・技能」でも正答率が高く、考えただけでなく、確実に正確な計算力が身につけてきたことがわかります。

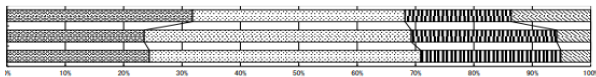
<全体を通しての改善のポイント>

例年、学校として課題となっているところは、少しずつ改善はされてきています。引き続き重点的に取り組んでいきます。また、国語・算数ともに個々における基本的な知識・技能の習熟や思考にばらつきが見られますので、一層個に応じた指導に力を入れていきたいと考えています。

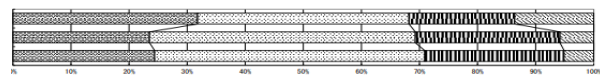
【児童質問紙 学習意識・生活意識】（グラフ 上段：本校 中段：神奈川県 下段：全国）

1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない その他 無回答

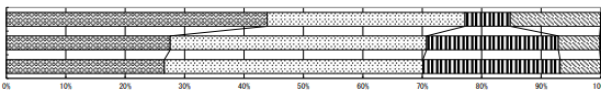
「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしていますか」



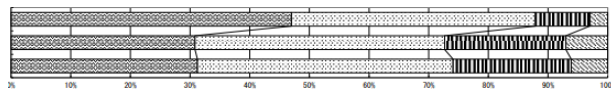
「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」



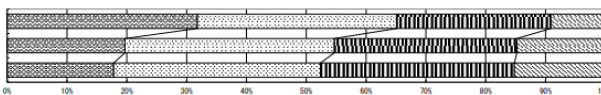
「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」



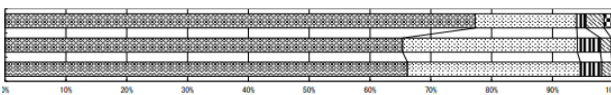
「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」



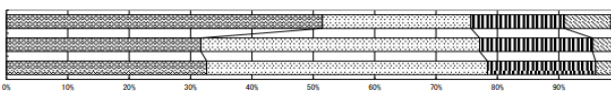
「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」



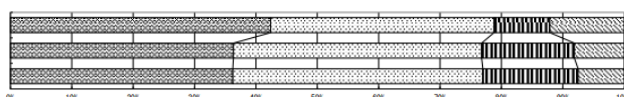
「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」



「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」



「自分にはよいところがあると思いますか」



学力調査では、国語、算数ともに、無回答率も大幅に全国平均を下回っています。このことから、粘り強く学習に向き合っている様子がわかります。一方、学習・生活意識調査では、プラス評価が多い反面、マイナス評価も一定数います。特に「自分にはよいところがあるか」や「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦するか」等の項目では、プラス評価もマイナス評価も多く、自分に自信がもてない様子がわかります。生活面も合わせて、個に応じた丁寧な支援をすることで、自信と自律を確立できるように、中学校進学に向けて、指導の工夫をしています。